

風に傾いて来て居る、時世とはいへ之は眞に喜しい現象で一層此機運を助成しもたいのです、此間其展覽會を遣つたのですが中々盛況で相應に満足の結果を得たと思ふのです、墨繪も中々奨励したのですが、先づ

六七十點中にも數葉の全紙への鉛筆畫及び多くの木炭畫などは大に振つて居たのです、水彩畫は特に多かつたので、三百余點中に中々見るべきものも、少くはなかつたのです、遣口は一才的學生が天才に任せなぐり付けたといふ様に見えたのも少くはなかつたけれども、臨畫の方は概して沈着して稍活氣のある、色を例に依てアツサリした使ひ振りであるから神秘的深甚なる感想を興へないが、一寸誰にても好かれさうで心持のよささうに見受けらるゝが、ともすると深みを缺いた薄いものなるのは殊に惜しと思ふたのです、其他多くの平常成績は大に發育的價値を發揮した譯で、心ある人の着目する所となつたのです、又手工科製作品の併列は一才目先の變れる所から一ト際人目を喜ばせました、何分地は高燥なり日は兩日に渉て好晴と來て居るので

すから、來觀者甚多く近來にない盛會であつて豫想外の成功でした、僅の事ですが運動會の色々の運動を模様化したのなどは著しく小學生徒等の興味を呼び起して實に面白い事でした。

兎に角平常他校に比しては時間も多く又年中色々の會に攻め立てられて居るに係らず如此成功を博し得た事は大に多とすべき事です、殊に學校の性質上始中終教育に結び付くるといふ事には出來得る丈け注意を拂ふたのでした、且つ又此等の機會を利用して出來得る丈け生徒の自發的觀念を養はしむるといふ寸法で、殆ど會の始終を彼等をして處置せしめたのですが、至極敏活に申分なく處置されて實に結構の事でした。要之此度の會も慥に良き影響を一般に與へ得たと思はるゝのですから、之が追々發展して一般の好尚に結び付くといふ事も想像し得らるるので、それが近くはないかも知れませんが又遠い將來の事でもなからふと信ずるのです。

(四十年十二月末稿)

## 朝の寫生

K T 生

午前五時といふに、繪具箱、ブロック抱へて森に入る。日は未だ出でず、自然はおぼろ／＼の夢に似たり。空は希望に滿てる薔薇色の笑を洩し、霧は草をおおひ、樹に罩めて、偉大なる中景の樹、色彩いよく柔かに趣益々深く今や萬物は、今日一日の初めの、汚れなき美と、神聖とを歌へり。柔草の茂れる所、露しきりにこぼれ、冷風軟かに畫布をかすむ、  
瞬時！我は汚れたる我にあらざして、美しき自然の讚美者なりき。

## みどり洋畫會

◎創立明治四十一年一月一日◎事務所横濱市尾上町三丁目四十番地島内みどり洋畫會◎目的としては毎年二回展覽會及び毎月一回畫葉書順送批評會を催ふし其他に研究材料品を備へて會員に貸與し専ら會員相互の洋畫に關する思想及び技術の發達を圖る◎機關雜誌「みどり」を毎年四回發行して會員に配付す◎會員は東京、横濱、地方に居住する同好有志にて皆青年なり學事の餘暇或は専門にして研究する者等にて現在の處二十四名を有す尙ほ昨今募集中なり右大略を御報告申上候

みどり洋畫會幹事代理

北山清太郎(通信)